

ツール 58：オプション 1.5

このツールの目的

よりよい代替案を策定することで、2つのまったく異なるアイデアや提案を解決する。

このツールを使うタイミング

コミットメントのフェーズで、意思決定を行わねばならず、取るべきアクションについての合意が必要なタイミング。

オプション1.5とは

オプション1.5とは、弁証法的グループプロセスで、2つの相反するオプションを、第3のよりよいオプションに作り替えるというものだ。Bob Dickによるこのツールは、2つのまったく異なるアイデアや提案を解決する際に役立つ。このツールは、意見の不一致から合意を生み出してくれる。

ある問題や状況に対するソリューションが2つある場合、どちらか1つを無理矢理選ぶための意思決定分析法はいくつかある。2つのうちのどちらかを無理矢理選び、「勝者」と「敗者」を生むのではなく、オプション1.5は、この2つのソリューションから第3のソリューションを導くというものだ。このツールは、2つのオプションのメリットのほとんどを維持しつつ、可能な限りデメリットを取り除こうとするものだ。このツールは3つ以上のソリューションが拮抗する場合にも使えるが、実際のところ、これは難しい。そのため、重要な意思決定の際や満足できるオプションが1つもない場合にのみ使うのでなければ意味がない。

オプション1.5のファシリテーション法

この手法の主なステップは以下の通り：

1. 2つのソリューション（オプション）をリストアップする。参加者全員が、この2つのソリューションを確実に理解できるよう、明確化が必要な場合は質問を行う。
2. オプション1の重要なメリットとデメリットを特定するため、情報収集・分析プロセスを活用する。オプション2についても同様に行う。
3. オプション1.5、つまりオプション1とオプション2を組み合わせてできた最高のオプションを、創造的な情報生成手順を活用して生み出す。

以下では各ステップをより詳細に説明する。

1. ソリューションのリストアップ

2つのソリューションをリストアップする。「明確化だけを目的とする質問」を行い、参加者がこの2つのソリューションを理解できるようにする。

- フリップチャートの上部に、この2つのオプションを列記する。
- 片方のオプションの賛同者は、もう片方のオプションについての明確化を求めるために質問を行うことができる。それぞれのオプションのメリットについて議論することは認められない。質問者が要求できるのは情報のみであり、回答者は質問に答えることだけに専念する。

2. オプションの分析

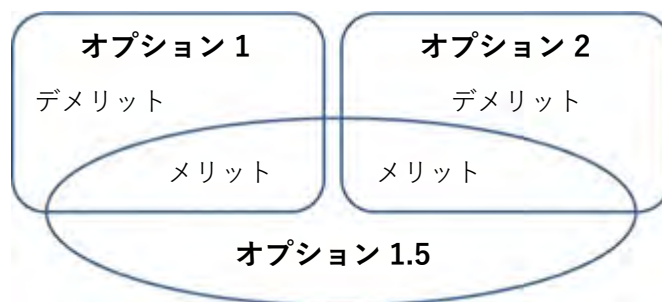
最初にオプション1のメリットを、次にデメリットをリストアップする。重要なメリットとデメリットを選ぶ。オプション2についても同様に行う。

- 情報収集プロセスを活用し、オプション1のメリットをリストアップする。
- 同様のプロセスを用い、オプション1のデメリットをリストアップする。オプション2の賛同者は、投票を行い、オプション1の主要なデメリットを選ぶ。
- オプション1の賛同者は、同オプションの主要なメリットを投票で選ぶ。

次に同じ手順でオプション2のメリットとデメリットをリストアップし、最も重要なメリット・デメリットを選ぶ。オプション1の賛同者はデメリットを選び、オプション2の賛同者はメリットを選ぶ。

3. 第3のオプションの考案

アイデア生成法を活用し、オプション1とオプション2の両者からベストなものを生み出せる方法をリストアップする。



- アイデア生成プロセスと、場合によっては創造的問題解決手法を用い、オプション1とオプション2の両者からベストなものを生み出すためのアイデアをリストアップする。これは、2つのオプションそれぞれの賛同者の協働による問題解決のアクティビティとして行う。多くの場合、少人数グループまたはペアで（2つのオプションの賛同者が同数になるようにする）行うとよい結果につながる。メンバーが出したアイデアをそのままリストアップする。
- 提案されたアイデアについて、扱える程度に数を絞るため、投票の手法を活用する。
- 主な提案を1つのソリューションにまとめるよう参加者に言う。これ自体が、「2つの異なるものからベストなものを生み出す」アプローチ（つまりオプション1.5）である。
- そのソリューションが、2つのオプションの主なデメリットを回避したものとなっているかを確認する。

オプション1.5のまとめ

このアクティビティの結果として一般的なものには、次のような4タイプがある。4タイプのいずれも、グループが意見の不一致を乗り越え、実行に向け前進することを、それぞれの形で可能にしてくれる。

1. すべてのメリットとデメリットが出揃うと、片方のオプションがよりよいことにメンバー全員が賛成する。このプロセスが往々にして示すのは、ミスコミュニケーションまたは誤解が問題だったということである。
2. 2つのオプションの融合（おそらく最も一般的な結果）。問題は誤解によるものであったという場合が多い。
3. 完全に新たなオプション。往々にして問題は、革新的な方法により解消できる対立に由来する。
4. 新たなオプションがまったく生まれえない。この場合、解消不可能な対立が存在する。このような結果となることはかなり多いが、それでも極めて有用だ。なぜならば、（少なくとも現在の形では）解決不可能にも見える問題を解決しようとグループが真剣に取り組んだことを示しているからだ。これにより、そのグループは、問題を議論することから、問題の枠組みを変えたり、問題を一旦脇に置いたり、解決のために必要なことは何かを検討したりすることに行動をシフトできるようになる。

さらに知りたい方は：

Dick, B. (1997) Option one-and-a-half: www.uq.net.au/action_research/arp/options.html;
www.aral.com.au/resources/options.html; www.bobwilliams.co.nz/Tools_files/half.pdf